

## 令和6年度 地域防災意見交換会・ワークショップ開催結果

### 1 目的

市地域防災計画の改定に向けて、基礎的な情報を集約することを目的に、地域単位での意見交換会やワークショップを通して、対面での定性的な調査を行い、本市の地域防災の現状と課題を把握し整理した。

### 2 内容

#### ●地域住民を対象とした意見交換会・ワークショップ（市内 15 地区<sup>※1</sup>）

※1：鶴城、城北、行仁、城西、謹教、日新、湊、一箕、町北・高野、神指、門田、大戸、東山、北会津、河東（日橋・八田・堂島）

##### 〔第1回〕

対象地区の地図を用意し、危険箇所を確認することを通じ、地域の現状確認と課題の洗い出しを行った。

##### 〔第2回〕

対象地区で災害（水害または地震）が発生した場合を想定し、避難行動や避難所運営等を行う際に地域住民が準備・対応すべきことやその実現に向け取り組むべきこと、解決すべき課題などについてワークショップ形式で意見交換を行った。

#### ●障がい者団体を対象とした意見交換会・ワークショップ（1回）

マイ・タイムライン作成ワークショップを行い、実際に災害が起きた場合をシミュレーションしながら、日ごろから必要となる準備や具体的な避難行動の想定などを行うとともに、その実現に向けて課題となることや地域・行政に求めることなどについて意見交換を行った。

#### ●外国人団体を対象とした意見交換会・ワークショップ（1回）

市の避難所設営の際に使用する防災備蓄品（パーティション、段ボールベッド等）の展示・体験、並びに防災食の試食会などを通じ、本市で被災した際の生活や防災グッズ等への興味関心・理解を醸成することで参加者の防災意識を高めるとともに、グループワークを行い、災害が起きた際に課題となることや日ごろから不安に感じていることなどについて意見交換した。

⇒計 26 回、のべ 629 名の参加を得て実施。

## 【意見交換会・ワークショップの開催実績】

	開催日時	地区（対象）	内容	参加者数
1	令和6年9月9日（月） 18：30～20：00	行仁地区（行仁まちづくり協議会）	・第1回WS（地域の危険箇所の把握）	27名
2	令和6年9月11日（水） 18：30～20：00	一箕地区（ひとみ創造ネットワーク）	・第1回WS（地域の危険箇所の把握）	44名
3	令和6年10月19日（土） 18：00～19：30	城西地区（区長会）	・第1回WS（地域の危険箇所の把握）	20名
4	令和6年11月19日（火） 18：00～19：30	鶴城地区（区長会）	・第1回WS（地域の危険箇所の把握）	16名
5	令和6年11月26日（火） 18：30～20：30	北会津地区（北会津地域づくり委員会）	・第1回WS（地域の危険箇所の把握） ・第2回WS（地域のタイムラインづくり）	16名
6	令和6年11月28日（木） 18：30～20：00	町北・高野地区（永和地区地域づくり協議会、区長会、民生児童委員協議会）	・第1回WS（地域の危険箇所の把握）	28名
7	令和6年12月14日（土） 10：00～11：30	障がい者団体（NPO法人夢あるき）	・マイ・タイムラインづくり、意見交換	27名
8	令和6年12月15日（日） 14：00～15：30	日新地区（区長会、民生児童委員協議会）	・第1回WS（地域の危険箇所の把握）	13名
9	令和6年12月19日（木） 18：30～20：00	町北・高野地区（永和地区地域づくり協議会、区長会、民生児童委員協議会）	・第2回WS（地域のタイムラインづくり）	25名
10	令和7年1月8日（水） 18：30～20：30	湊地区（みんなと湊まちづくりネットワーク）	・第1回WS（地域の危険箇所の把握） ・第2回WS（地域のタイムラインづくり）	28名
11	令和7年1月11日（土） 10：00～12：00	外国人団体（国際交流協会）	・防災備蓄品等の展示、体験、意見交換	17名
12	令和7年1月15日（水） 10：00～11：30	東山地区（東山・人と地域をつなぐ会）	・第1回WS（地域の危険箇所の把握）	11名
13	令和7年1月17日（金） 13：30～15：00	門田地区（地域ケア会議）	・第1回WS（地域の危険箇所の把握）	42名
14	令和7年1月25日（土） 14：00～16：00	神指地区（地域ケア会議）	・第1回WS（地域の危険箇所の把握） ・第2回WS（地域のタイムラインづくり）	21名
15	令和7年1月28日（火） 13：30～15：00	河東地区（区長会、民生児童委員協議会、河東地域づくり委員会）	・第1回WS（地域の危険箇所の把握）	32名
16	令和7年1月29日（水） 16：00～17：30	城西地区（区長会）	・第2回WS（地域のタイムラインづくり）	14名
17	令和7年2月12日（水） 13：30～15：00	東山地区（東山・人と地域をつなぐ会）	・第2回WS（地域のタイムラインづくり）	19名
18	令和7年2月20日（木） 13：30～15：00	謹教地区（地域ケア会議）	・第1回WS（地域の危険箇所の把握） ・第2回WS（地域のタイムラインづくり）	40名

	開催日時	地区（対象）	内容	参加者数
19	令和7年2月21日（金） 14:00～16:00	城北地区（地域ケア会議）	・第1回WS（地域の危険箇所の把握） ・第2回WS（地域のタイムラインづくり）	25名
20	令和7年2月25日（火） 17:45～19:00	鶴城地区（区長会）	・第2回WS（地域のタイムラインづくり）	15名
21	令和7年2月27日（木） 13:30～15:00	門田地区（地域ケア会議）	・第2回WS（地域のタイムラインづくり）	40名
22	令和7年2月27日（木） 18:30～20:00	一箕地区（ひとみ創造ネットワーク）	・第2回WS（地域のタイムラインづくり）	35名
23	令和7年3月17日（月） 19:00～20:00	行仁地区（行仁まちづくり協議会）	・第2回WS（地域のタイムラインづくり）	21名
24	令和7年3月18日（火） 18:30～20:00	大戸地区（大戸まちづくり協議会）	・第1回WS（地域の危険箇所の把握） ・第2回WS（地域のタイムラインづくり）	13名
25	令和7年3月24日（月） 14:00～15:30	河東地区（区長会、民生児童委員協議会、河東地域づくり委員会）	・第2回WS（地域のタイムラインづくり）	29名
26	令和7年3月28日（金） 14:00～15:30	日新地区（区長会、民生児童委員協議会）	・第2回WS（地域のタイムラインづくり）	11名

### 3 結果

#### 【意見等のまとめ】

##### ① 地域住民を対象とした意見交換会・ワークショップ

意見交換会やワークショップで出された意見等は次のとおり。

なお、「地域の危険箇所」については、あくまでワークショップにおける意見であり、事実関係の調査・確認までには至っていないことから、「地域住民が体感しているリスク」として整理した。

ア) 行仁地区	
地域の危険箇所 (体感されている災害リスク等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 狹い道や一方通行が多く、災害時に避難車両で混雑するおそれがある。特に積雪時にはさらに通行しにくくなることが予想される。</li> <li>● 一部、冠水しやすい道路やあふれやすい側溝等がある。</li> <li>● 寺社仏閣が多く、大きな地震の際には建物や鳥居、灯籠、墓石等の倒壊、火災等が心配されている。</li> <li>● 空き家が増えてきており、地震時に倒壊や火災延焼等のおそれがある。</li> <li>● 街灯が暗い箇所があり、夜間に災害が起きた場合の避難行動にも影響があると考えられる。</li> </ul>

災害時に向け必要な取組や課題	<p><b>【地域で取り組むこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●一人暮らしの高齢者や障がいがある方への声掛け、安否確認</li> <li>●避難誘導や救助、救援活動</li> <li>●炊き出し</li> </ul> <p><b>【取組を行う上での課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●防災ミニケア会議の推進</li> <li>●情報をとれない方のサポート体制づくり</li> <li>●災害時のシミュレーション</li> </ul>
----------------	--

イ) 鶴城地区	<p><b>地域の危険箇所 (体感されている災害リスク等)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●大雨時に内水氾濫の被害が生じている場所があり対策が必要となっている。</li> <li>●古い家や空き家等があり、地震の際に倒壊や火災等のおそれがある。</li> <li>●道幅が狭く、緊急車両が通行できなかったり、避難の際に混雑したりするおそれがある場所があり、降雪時には注意が必要となる。</li> <li>●地域に観光施設が多いため、被災した観光客の支援、対応が必要となる。</li> </ul>
災害時に向け必要な取組や課題	<p><b>【地域で取り組むこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●正確な情報の把握と周知</li> <li>●一人暮らしの高齢者や障がいがある方への声掛け、安否確認</li> <li>●避難後の住民の情報の把握</li> </ul> <p><b>【取組を行う上での課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●住民情報の把握や住民が集まる機会づくり</li> <li>●町内会等の連絡網の活用や避難訓練や避難所運営シミュレーションの実施</li> </ul>

ウ) 謹教地区	
地域の危険箇所 (体感されている災害リスク等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大雨時に内水氾濫の被害が生じている場所があり対策が必要となっている。</li> <li>● 古い家や空き家、寺社仏閣、ブロック塀等があり、地震の際に倒壊や火災等のおそれがある。</li> <li>● 道幅が狭く、緊急車両が通行できなかつたり、避難の際に混雑したりするおそれがある場所があり、降雪時には注意が必要となる。</li> <li>● ふたの無い側溝などがあり危険。</li> </ul>
災害時に向け必要な取組や課題	<p>【地域で取り組むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●事前に避難方法を共有しておく</li> <li>●一人暮らしの高齢者や障がいのある方への声掛け、安否確認</li> <li>●隣近所で声を掛け合って一緒に避難する</li> </ul> <p>【取組を行う上での課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●住民情報の把握や住民が集まる機会づくり</li> <li>●防災ミニケア会議や出前講座、避難訓練等を通じた防災意識向上や有事に向けた体制づくり</li> <li>●市営住宅の活用など独自の避難体制づくり</li> </ul>

エ) 城北地区	
地域の危険箇所 (体感されている災害リスク等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大雨時に内水氾濫の被害が生じている場所があり対策が必要となっている。</li> <li>● 古い家や空き家、ブロック塀等があり、地震の際に倒壊や火災等のおそれがある。</li> <li>● 道幅が狭く、緊急車両が通行できなかつたり、避難の際に混雑したりするおそれがある場所があり、降雪時には注意が必要となる。</li> <li>● ふたや柵が無い側溝や水路があり危険。</li> <li>● がけ地があり、水害や地震等で崩壊するおそれがある。</li> </ul>
災害時に向け必要な取組や課題	<p>【地域で取り組むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●強風で飛びそうな物の片づけや窓ガラスの補強など</li> <li>●一人暮らしの高齢者や障がいがある方への声掛け、安否確認</li> <li>●隣近所で声を掛け合って一緒に避難する</li> </ul> <p>【取組を行う上での課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●住民情報の把握や住民が集まる機会づくり</li> <li>●町内会と民生児童委員等関係機関・団体との連絡体制づくり</li> <li>●役員等の高齢化やマンパワー不足</li> </ul>

オ) 日新地区	
地域の危険箇所 (体感されている災害リスク等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大雨時に道路冠水等の被害が生じている場所があり対策が必要となっている。</li> <li>● 古い家や寺社、空き家等があり、地震の際に倒壊や火災等のおそれがある。</li> <li>● 道幅が狭く、緊急車両が通行できなかったり、避難の際に混雑したりするおそれがある場所がある。特に、降雪時には注意が必要となる。</li> <li>● 細い水路や策がない水路があり、氾濫や子どもの転落等の危険がある。</li> </ul>
災害時に向け必要な取組や課題	<p>【地域で取り組むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 強風で飛びそうな物の片づけや窓ガラスの補強など</li> <li>● 一人暮らしの高齢者や障がいがある方への声掛け、安否確認</li> <li>● 隣近所で声を掛け合って一緒に避難する</li> </ul> <p>【取組を行う上での課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ミニケア会議や出前講座等を通じた住民の防災意識向上や体制づくり</li> <li>● 要配慮者の把握と避難誘導の仕組みづくり（誘導の優先順位や経路など）</li> <li>● 消防団や日赤等の関係機関・団体等との連携体制づくりやマンパワーの確保</li> </ul>

カ) 城西地区	
地域の危険箇所 (体感されている災害リスク等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大雨時に内水氾濫の被害が生じている場所があり対策が必要となっている。</li> <li>● 避難の際に川や橋を渡らなければならない場所があり、早めの避難や垂直避難等の対応が求められる。</li> <li>● 道幅が狭く、緊急車両が通行できなかったり、避難の際に混雑したりするおそれがある場所がある。特に、降雪時には注意が必要となる。</li> <li>● 地区で管理している水門があり、近年の短時間かつ局地的な大雨の際には、区長等が難しい判断を迫られることが増えており対応に苦慮している。</li> <li>● 古い家が多く、大きな地震の際には倒壊等のおそれがある。</li> <li>● 空き家や除草等が行き届いていない水路等があり、環境悪化や内水氾濫等につながるおそれがある。</li> </ul>

災害時に向け必要な取組や課題	<p><b>【地域で取り組むこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 強風で飛びそうな物の片づけや窓ガラスの補強など</li> <li>● 一人暮らしの高齢者や障がいがある方への声掛け、安否確認</li> <li>● 隣近所で声を掛け合って一緒に避難する</li> </ul> <p><b>【取組を行う上での課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ミニケア会議や出前講座等を通じた住民の防災意識向上や体制づくり</li> <li>● 市営住宅や民間施設の活用など独自の避難体制づくり</li> <li>● 消防団などの関係機関・団体等との連携体制づくりやマンパワーの確保</li> </ul>
----------------	---

キ) 町北・高野地区  地域の危険箇所 (体感されている災害リスク等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大雨時に氾濫の被害が生じている。また、河川氾濫による浸水被害の危険性が高い場所が多く、ハード・ソフト両面からの対策が必要となっている。</li> <li>● 道幅が狭く、緊急車両が通行できなかったり、避難の際に混雑したりするおそれがある場所がある。特に、降雪時には注意が必要となります。</li> <li>● 空き家や清掃が行き届いていない水門・水路等があり、環境悪化や内水氾濫等につながるおそれがある。</li> <li>● 街灯が少なく、暗い道路や事故が多い道路があり、平常時、災害時ともに危険がある。</li> <li>● 幹線道路の整備が進んでおり、その影響により浸水被害等の状況が変わるおそれがある。</li> </ul>
災害時に向け必要な取組や課題	<p><b>【地域で取り組むこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 一人暮らしの高齢者や障がいがある方への声掛け、安否確認</li> <li>● ゴムボートなど災害想定に応じた防災備蓄品の準備</li> <li>● 避難が必要になった際の避難誘導</li> </ul> <p><b>【取組を行う上での課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ミニケア会議や出前講座等を通じた住民の防災意識向上や体制づくり</li> <li>● 消防団などの関係機関・団体等との連携体制づくりや地域の連絡網作成</li> <li>● 避難誘導の仕組みづくり（誘導の優先順位や経路など）</li> </ul>

ク) 神指地区	
地域の危険箇所 (体感されている災害リスク等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大雨時に氾濫の被害が生じている。また、河川氾濫による浸水被害の危険性が高い場所が多く、ハード・ソフト両面からの対策が必要となっている。</li> <li>● 道幅が狭く、緊急車両が通行できなかったり、避難の際に混雑したりするおそれがある場所がある。特に、降雪時には注意が必要となる。</li> <li>● 古い家が多く、大きな地震の際には倒壊等のおそれがある。</li> <li>● 街灯が少なく、暗い道路や事故が多い道路があり、平常時、災害時ともに危険がある。</li> <li>● 細い水路や策がない水路があり、氾濫や子どもの転落等の危険がある。</li> </ul>
災害時に向け必要な取組や課題	<p>【地域で取り組むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 用水路等の清掃や危険箇所の点検など</li> <li>● 一人暮らしの高齢者や障がいがある方への声掛け、安否確認</li> <li>● 避難が必要になった際の避難誘導</li> </ul> <p>【取組を行う上での課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ミニケア会議や出前講座等を通じた住民の防災意識向上や体制づくり</li> <li>● 避難訓練や避難所運営のシミュレーションの実施</li> <li>● 避難誘導の仕組みづくり（移動手段の無い方への対応をどうするか）</li> </ul>

ケ) 門田地区	
地域の危険箇所 (体感されている災害リスク等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大雨時に水路の氾濫や道路冠水、床下浸水等の被害が生じている場所がある。</li> <li>● 地盤の弱いエリアがあり、地震の際に建物やブロック塀倒壊、液状化等のおそれがある。</li> <li>● 道幅が狭く、緊急車両が通行できなかったり、避難の際に混雑したりするおそれがある場所がある。特に、降雪時には注意が必要となる。</li> <li>● 深い側溝や策がない水路があり、氾濫や子どもの転落等の危険がある。</li> <li>● クマやイノシシ等の被害があり、対策が必要になっている。</li> </ul>

災害時に向け必要な取組や課題	<p><b>【地域で取り組むこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●町内会の連絡網や名簿作成、備蓄品の準備など</li> <li>●一人暮らしの高齢者や障がいがある方への声掛け、安否確認</li> <li>●避難が必要になった際の避難誘導</li> </ul> <p><b>【取組を行う上での課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ミニケア会議や出前講座等を通じた住民の防災意識向上や体制づくり</li> <li>●避難訓練や避難所運営のシミュレーションの実施</li> <li>●避難誘導の仕組みづくり（移動手段の無い方への対応をどうするか）</li> </ul>
----------------	---

#### コ) 大戸地区

地域の危険箇所 (体感されている災害リスク等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 土砂災害危険区域や砂防指定に指定されている地域があり、また、大雨時には冠水被害等も発生しているため、ハード・ソフト両面からの対策が必要となっている。</li> <li>● 土砂崩れや大雪等の際には道路が通行できなくなり“陸の孤島”となるおそれのある地域がある。</li> <li>● 道幅が狭く、緊急車両が通行できなかったり、避難の際に混雑したりするおそれがある場所がある。特に、降雪時には注意が必要となる。</li> <li>● 古い家が多く、また、空き家が増えており、大きな地震の際には倒壊等のおそれがある。</li> <li>● 山火事が発生したことがあり、火事の発生が心配。</li> <li>● クマやイノシシ等の被害があり、対策が必要になっている。</li> </ul>
災害時に向け必要な取組や課題	<p><b>【地域で取り組むこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自主防災組織を活用し住民間で情報共有</li> <li>●一人暮らしの高齢者や障がいがある方への声掛け、安否確認</li> <li>●避難が必要になった際の避難誘導</li> </ul> <p><b>【取組を行う上での課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ミニケア会議や出前講座等を通じた住民の防災意識向上や体制づくり</li> <li>●防災無線の設置やＩＣＴ（ＬＩＮＥなど）の活用など情報伝達手段の拡充</li> <li>●避難誘導の仕組みづくり（安全通行できるルートの把握、周知など）</li> </ul>

サ) 東山地区	
地域の危険箇所 (体感されている災害リスク等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大雨時に道路冠水等の被害が生じている場所があり対策が必要となっている。</li> <li>● 古い家や空き家等があり、地震の際に倒壊や火災等のおそれがある。</li> <li>● 道幅が狭く、緊急車両が通行できなかったり、避難の際に混雑したりするおそれがある場所がある。特に、降雪時には注意が必要となる。</li> <li>● 地域に観光施設が多いため、被災した観光客の支援、対応が必要となる。</li> <li>● クマやイノシシ、シカ等の獣害が増加傾向にある。</li> </ul>
災害時に向け必要な取組や課題	<p>【地域で取り組むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●町内会の連絡網や名簿作成、備蓄品の準備など</li> <li>●一人暮らしの高齢者や障がいがある方への声掛け、安否確認</li> <li>●避難所での要支援者の対応</li> </ul> <p>【取組を行う上での課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●個人の防災意識の再確認（備蓄品の準備など）</li> <li>●放送網の整備やICT（LINEや独自のアプリなど）の活用など情報伝達手段の拡充</li> <li>●避難誘導の仕組みづくり（役割分担や交通手段がない方への対応など）</li> </ul>

シ) 一箕地区	
地域の危険箇所 (体感されている災害リスク等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 土砂や樹木、雑草等がたまっていることもあり、大雨時の金山川や不動川の増水、氾濫のおそれがある。</li> <li>● 一箕小中学校やふれあい体育館などが断層の直上や土砂災害計画域に立地しており、災害時に使用できないおそれがある。</li> <li>● 松長地区や居合地区など、道が狭い地域では、災害時に避難車両で混雑するおそれがある。特に積雪時にはさらに通行しにくくなることが予想される。 また、築40~50年を超える木造住宅が多く、空き家も多いため、地震時には倒壊や火災延焼等のおそれがある。</li> <li>● 一部、冠水しやすい道路やあふれやすい側溝等がある。</li> <li>● 松長団地や滝沢峠付近にクマが出没し危険。</li> <li>● 除草されていない空き地等があり、見通しが悪く、虫が発生するなど環境悪化につながっている。また、倒木が心配な樹木がある。</li> <li>● 街灯が暗い箇所があり、夜間に不安を感じる。夜間に災害が起きた場合の避難行動にも影響があると考えられる。</li> </ul>

災害時に向け必要な取組や課題	<p><b>【地域で取り組むこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●町内会ごとのハザードマップ作成、備蓄品の準備など</li> <li>●一人暮らしの高齢者や障がいがある方への声掛け、安否確認</li> <li>●避難所での避難者の確認や運営補助など</li> </ul> <p><b>【取組を行う上での課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ミニケア会議や出前講座等を通じた住民の防災意識向上や体制づくり</li> <li>●放送網の整備やＩＣＴ（ＬＩＮＥなど）の活用など情報伝達手段の拡充</li> <li>●避難誘導の仕組みづくり（役割分担や安全に通行できるルートの把握、周知など）</li> </ul>
----------------	---

地域の危険箇所 (体感されている災害リスク等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大雨時に河川氾濫による浸水被害の危険性が高い場所がある。</li> <li>●古い家や寺社仏閣が多く、また、空き家が増えており、大きな地震の際には倒壊等のおそれがある。</li> <li>●交通事故の多い道路や、冬季間見通しの悪い道路などがあり、平常時、災害時ともに危険がある。</li> <li>●河川に囲まれた地域のため、避難の際には橋を渡る必要があるが、橋に車両が殺到し混雑するおそれがある。</li> </ul>
災害時に向け必要な取組や課題	<p><b>【地域で取り組むこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●町内会の連絡網や名簿作成、備蓄品の準備など</li> <li>●一人暮らしの高齢者や障がいがある方への声掛け、安否確認</li> <li>●避難所での困りごとの相談や食事作り、高齢者等の健康チェックなど</li> </ul> <p><b>【取組を行う上での課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ミニケア会議や出前講座等を通じた住民の防災意識向上や体制づくり</li> <li>●日ごろからの住民どうしの交流の機会づくり</li> <li>●地域の専門職（医療、福祉関係など）とのネットワークづくり</li> </ul>

セ) 河東地区	
地域の危険箇所 (体感されている災害リスク等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大雨時に内水氾濫や床上浸水等の被害が生じている場所があり対策が必要となっている。</li> <li>● 古い家や空き家等が多く、地震の際に倒壊や火災等のおそれがある。</li> <li>● 道幅が狭く、緊急車両が通行できなかったり、避難の際に混雑したりするおそれがある場所がある。特に、降雪時には注意が必要となる。</li> <li>● 危険な交差点や老朽化した踏切、公共施設等があり、対策が必要となっている。</li> </ul>
災害時に向け必要な取組や課題	<p>【地域で取り組むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の要配慮者の把握や住民への正確な情報の共有、備蓄品の準備など</li> <li>● 一人暮らしの高齢者や障がいがある方への声掛け、安否確認（自宅玄関にリボンをつけるなど独自のルールづくり）</li> <li>● 避難が必要になった際の避難誘導</li> </ul> <p>【取組を行う上での課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ミニケア会議や出前講座等を通じた住民の防災意識向上や体制づくり</li> <li>● 日ごろからの住民どうしの交流の機会づくり</li> <li>● 避難誘導の仕組みづくり（役割分担や安全に通行できるルートの把握、周知など）</li> </ul>

ソ) 湿地区	
地域の危険箇所 (体感されている災害リスク等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 土砂災害危険区域や土石流危険渓流、砂防指定地に指定されている地域があり、また、大雨時には水害や土砂災害等が発生したことがあるため、ハード・ソフト両面からの対策が必要となっている。 特に、山沿いに立地している住宅は危険。</li> <li>● 全体的に街灯が暗く、夜間に不安を感じる。夜間に災害が起きた場合の避難行動にも影響があると考えられる。</li> <li>● 古い家や空き家等が多く、地震の際に倒壊や火災等のおそれがある。</li> <li>● 火災時の水の確保が困難。</li> <li>● 土砂崩れや大雪等の際には道路が通行できなくなり“陸の孤島”となるおそれのある地域がある。</li> </ul>

災害時に向け必要な取組や課題	<p><b>【地域で取り組むこと】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●警報や注意報が出た際の声掛けや見回り</li> <li>●一人暮らしの高齢者や障がいがある方への声掛け、安否確認</li> <li>●避難が必要になった際の避難誘導</li> </ul> <p><b>【取組を行う上での課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ミニケア会議や出前講座、避難訓練等を通じた住民の防災意識向上や体制づくり</li> <li>●要配慮者の情報把握や集落内の放送設備の改修</li> <li>●避難場所の確保や避難誘導の仕組みづくり（役割分担や要配慮者の対応など）</li> </ul>
----------------	--

## ② 関係団体を対象とした意見交換会・ワークショップ（障がい者団体）

意見交換での主な意見	<p><b>【自助】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 備蓄品や非常持ち出し品などを準備しておく</li> <li>● 具体的にどんな行動をすべきか家族で話し合っておく</li> <li>● 障がい者本人の「サポートブック」を作つておく</li> </ul> <p><b>【共助】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 近所の方と家族の障がい特性について共有しておく</li> <li>● 町内会で避難訓練をしてほしい</li> <li>● 通所先の事業所で保護者や職員間の LINE グループをつくるなど、緊急時の情報共有ツールを準備する。</li> </ul> <p><b>【公助】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 福祉避難所を早期に開設してほしい</li> <li>● 避難所にベッドや障がいのある方向けのスペースをつくるなど個人の特性に配慮した対応をしてほしい</li> <li>● 障がいのある方にもわかりやすい情報発信をしてほしい</li> </ul>
------------	---

### ③ 関係団体を対象とした意見交換会・ワークショップ（国際交流協会）

意見交換での主な意見	<ul style="list-style-type: none"><li>● 経験がないから災害時にどう対応していいかわからない</li><li>● 災害のイメージがわからない。どんなことを想定すればよいかわからない。</li><li>● 情報を取得する手段が限られている。</li><li>● 宗教によっては食べられるものが限られてしまう。</li><li>● 日本の対応はいいから安心している。</li><li>● 友人がいれば大丈夫</li></ul>
------------	--

#### 【傾向分析】

各地区及び障がい者団体、国際交流協会との意見交換・ワークショップの意見等の傾向等は以下のとおり。

##### ① 地域の危険箇所等について

- 地域の危険箇所については、10年前と比較し、水害（特に内水氾濫）の被害が拡大している。

これは、本市においても近年の地球温暖化等の影響による気候変動により、ゲリラ豪雨等をはじめとした降水パターンの変化が実際の災害発生につながっていることを示しており、災害発生エリアの地域には、住民自らの日ごろからの備えに加え、道路や水路等の整備、排水設備の設置・改修などハード・ソフト両面からの対策が必要となっている。

- 特に、水害や土砂災害による被害想定が大きい地区（城西、日新、町北・高野、神指、東山、大戸、北会津、河東など）においては、河川等の管理者に対し、河川の清掃（土砂や樹木の除去など）や整備（堤防の改修、増設など）、ダムの放水の管理などへの要望が多く出された。こうした地区では、日ごろからの河川の増水やダムの貯水量等の情報共有をより緊密にしてほしいとの意見もあわせて出されている。

- 地震については、水害ほど住民の危機意識がなく、具体的な危険箇所の把握が難しかったが、市内中心部（A、Bエリア）では、寺社仏閣など老朽化した木造建築物や墓石・灯篭等の工作物等の倒壊、古いブロック塀の倒壊等を懸念する意見が多かった。

一方、市周辺部（C～J※特に山間部）では、地震に伴う土砂崩れや法面の倒壊を不安視する意見が多かった。特に、土砂災害による被害想定が大きい地区（東山、大戸など）からは、砂防ダムの管理など、ハード整備に関する意見や要望が出された。

- 全ての地区から空き家の増加が課題としてあげられた。これらは、地震の際に倒壊の危険があるだけではなく、草木の処理や動物の住みかとなるなど、環境面での課題としても認識されている。
- その他の危険箇所として、狭隘な道路環境（除雪が困難であったり、災害時に避難車両で渋滞するおそれがある）や、防犯灯がなく暗いこと、クマやイノシシ等の獣害、といった意見が多く出された。

② 災害時に地域で取り組むことや課題について

- 災害時に地域で取り組むべきこととしては、多くの地区で共通して、以下の取組事項が出された。
  - ・地域の要配慮者の把握やリストの作成
  - ・要配慮者をはじめとした地域住民への情報提供や声掛け、避難誘導
  - ・地域の連絡体制づくり（町内会単位での連絡網や地域組織と関係団体（消防団や民生児童委員、警察、市など）との連携体制づくりなど）
  - ・備蓄品の準備
  - ・地域での避難場所や避難所、避難方法の事前の取り決め
  - ・地域独自の避難場所や避難所の確保

なお、地区によっては、ワークショップの中で、すでに自主防災組織を設立し、取組を進めている町内会から、「誰が誰に声をかけるかを事前に決めている」「町内会で企業等と協定を締結し、災害時に避難できるようにしている」「町内会役員でLINEグループをつくって円滑に情報共有できる仕組みをつくっている」といった事例の紹介がなされた。

- 上記の取組を継続・実現するための課題として、多くの地区から、以下の意見が出された。
  - ・地域のつながりが希薄化していてどこに誰が住んでいるか把握しきれない（特にアパートやマンションなど）
  - ・要配慮者を避難させる際にどう対応してよいかわからない
  - ・住民一人ひとりの防災意識が低いため、地域での取組が進まない
  - ・避難所が遠い方や他の地区の避難所に避難した方がよい方の避難行動をどう計画すればよいかわからない。

また、地区全体で他の地区に避難するような想定をした場合、どう避難計画を作つてよいかわからない。

- ・自家用車で避難する場合、一斉に非難してしまうと道路が渋滞するおそれがあるが、誰がどう誘導するのか。また、避難の際の優先順位など事前の取り決めをどう考えるとよいかわからない。
- ・避難所の運営をしたことがないので、まったくイメージがわからない。

- ・若い世代が少なくなっているため、災害時に活動を期待できる住民がいない。住民自体少なくなっておりマンパワーが足りない。

● また、課題の解決策としては以下の意見が出された。

- ・ミニケア会議や出前講座を開催し、住民の意識向上を図る。
- ・日ごろから住民同士の顔の見える関係をつくっていく
- ・定期的に避難訓練や避難所運営のシミュレーションといった取組を行う
- ・複数町内会単位で避難訓練を行うなど、地域内での連携体制をつくる

③ 関係団体との意見交換の結果について

● 障がい者団体について

障がい者ご本人やそのご家族等について、防災等に関する知識や家庭での備え等については、健常者の家庭と大きく差がない印象を受けた。

一部、災害時に避難所へ持参できるよう、ご本人の特性や薬の状況、配慮してほしい事項などをまとめた「サポートブック（県が推奨している）」を作成するなど、力を入れている家庭があったが、作成には時間等を要するため、普及はしていなかった。

特に、地域や行政等に求めることとしては以下の点があげられた。

- ・地域の方と障がい者本人の特性等について共有することが必要
- ・避難所の福祉対応の充実（ベッドの設置、特性に配慮したスペース設置など）
- ・福祉避難所の早期開設

● 国際交流協会について

外国籍の方については、これまで全く災害を経験しておらず、そもそも災害のイメージがわからないという方が大半であった。

また、日本のステレオタイプなイメージから「行政の対応がいいから大丈夫だろう」という楽観的な考え方の方も一部おり、発災時には適切な対応が取れず、また、準備等も不十分なため、様々な混乱やトラブル等に見舞われる方が多く出ることが予想される。

また、情報取得についても、取得先がアプリや翻訳機能を利用する必要があるなど限定的かつハードルが高いことも課題としてあげられた。

## 【今後必要となる対応など】

### ① 地域住民に対して必要となる取組

#### ● ミニケア会議や出前講座等による防災意識向上や自主防災組織設立・運営支援の取組の更なる推進

実効性のある地域防災体制を構築するためには、地域の小さな単位（町内会レベル）での防災の取組を進める必要がある。

本事業でも、地域の方々から町内会単位での勉強会や自主防災組織の設立等が当面必要な取組としてあげられたことから、市が推進している自助の取組については、地域住民の意識とも一致していることが明らかである。（すでに自主防災組織を設立し、取組を進めている地区からは本事業のワークショップの内容等について物足りなさを訴える声もあった）

この現在市が進めているミニケア会議等と連携した自主防災組織設置の取組は重要かつ効果的であるが、膨大な数の町内会に働きかけ、面的に取組を推進していくことは、市の担当課のみでは物量の面から困難である。

よって、当該取組については、市担当課において全体の進捗状況の把握や進行管理等の統括を行いながら、地域の防災士会やNPO、市民団体等が実際の町内会における勉強会や自主防災組織の設立、備蓄品の準備や避難訓練、地域独自の防災施策（独自の避難所・避難場所の確保や地域の企業等との連携、町内会単位での防災マップづくりなど）の実施等について伴走型の支援をしていくような実施体制の整備が重要となる。

#### ● きめ細かな連絡・情報共有体制の構築

本事業では、河川氾濫や土砂災害の被害が想定される地域からは、ダムや河川、砂防ダム等の整備の状況（清掃や改修など）や災害時に各施設設備の管理者から地域住民に対してどういった周知や対応がなされるのかといった情報共有が不足していることに対する不安等の意見が出された。

こうした情報については市のみですべて管理しているものではないが、各施設設備の管理者や国、県等の関係機関等へも地域住民の考え方や意見等をつなぎ、必要な対応や連携がなされるようコーディネートする必要がある。

#### ● 地域間の連携・情報共有等の仕組みづくり

本事業において、多くの地区から、「隣の地区的学校等に避難する方が近い」「複数町内会が合同で避難訓練等をしてはどうか」といった意見が出された。

実際に、発災時のことを考えても、地区や町内会が連携して避難したり復旧復興活動を行ったりすることは容易に想像できる。

のことから、市としては、町内会単位での自主防災組織の設立など小さな生活圏での防災活動を推進することと合わせて、組織間のつながりづくりや、連携・補完し合える体制づくりに向け、コーディネート・調整役として機能する必要がある。

なお、この取組の推進にあたっては、地域運営組織（RMO）や地域包括支援センターなど、関係機関・団体等と連携することでより効率的・効果的に連携体制が構築できるものと考える。

## ② 関係団体等に対して必要となる取組について

障がい者団体及び国際交流協会との意見交換を通じて、障がい者やその家族、通所先の事業所、外国籍の方などが抱えている課題等を一定程度把握することができた。

障がいのある方やその家族等については、発災時に、避難行動だけでなく、避難先でスタッフや避難者等の方々へ本人の障がい特性や必要な配慮、服薬の情報などを共有する必要があるなど健常者以上に事前の備えや準備が必要となる。当事者や家族、支援者等もその必要性等は理解しているものの備蓄品の準備や「サポートブック」のような事前資料の作成といった具体的な行動につながっている方が少ない状況である。

今回実施したような「マイ・タイムライン」研修等の取組は意識啓発や各家庭での備蓄品の準備など具体的な行動に結びつきかっけとなる可能性があるため、引き続き、障がい者施設等と連携し、本人や家族向けの勉強会を開催するなど、啓発の機会創出に努めることが望ましい。

また、上記の取組を障がい者福祉施設等と連携して行うことは、災害時に当事者や家族等を支援する立場である事業所の意識啓発にもつながるため、より実効性の高いBCPの作成や福祉避難所の拡充など、支援体制の強化にもつながることが期待できる。

外国籍の方については、そもそも災害のイメージが乏しいことと、平常時・発災時のいずれにおいても情報取得の手段が限られていることが大きな課題として把握できた。

まずは、本事業をきっかけとして、国際交流協会との連携を密にし、平常時には在住外国人に対する教育や意識啓発、発災時には情報発信や通訳等の協力が得られるよう、協力関係を構築することが急がれる。

そのうえで、当該団体等と連携し、具体的な防災教育や多言語対応による情報発信等の取組を進めるべきと考える。

## ◎ 上記2つの取組を進めていくために必要な取組

### ● 地域の防災リーダーの意識、育成

地域の防災リーダーについては、消防団や防災士会との連携などを進めているところであるが、こうした人材が自主防災組織の設立や各組織の伴走支援などに携われると地域の自主的な防災活動が加速化すると考えられる。

こうした人材が地域で活躍できるよう、必要な研修や人件費の手当、組織化の支援等を行うことが必要である。

### ● 多様な方に対応した防災・避難体制の構築

避難所運営マニュアルの整備や防災備蓄品の配置など、防災・避難体制の構築を進めている。引き続き、この取組を強化するとともに、こどもや障がい者、高齢者、外国人等の災害時要配慮者の方々にも円滑に対応できるよう、ベッドや別スペースの確保、多言語対応、ハラルフード対応など、きめ細かな配慮が求められる。

また、ハード面の整備だけでなく、災害時の医療・福祉関係者との連携体制の強化など、発災時においても要配慮者の方々が必要なケアを受けられる体制づくりにも意を用いる必要がある。

### ● 分野横断的な連携体制の構築

発災時には、分野を超えた連携が重要となることから、他の所管部局や関係機関等と顔の見える関係づくりを進めていくことが重要となる。特に、近年、災害時ケアマネジメントの推進が重要視されていることから、医療・福祉分野との連携強化に努める必要がある。

他分野との連携にあたっては、担当課単独では困難であることから、産業、福祉、地域づくりなどの関係部局との協力関係の構築が重要である。

特に、本市では、高齢分野における地域包括支援センターの地域ケア会議の活動や、地域運営組織の支援の取組などが活発であるため、こうした既存の地域づくり活動の動きと連動することが重要である。